

さいがいの 災害にそなえる

チェックしよう! 持ち物と約束

ひじょう ひん 非常持ち出し品

ひ難の時に持ち出す「非常持ち出し品」を確認し、家族でチェックしましょう。

食べ物・飲み物

飲み水 ※3日分
缶詰
かんパン

衣類・タオル

雨具
タオル
下着のかえ

あると便利なもの

マスク
ねんちゃくテープ
ラップ

安全のためのもの

ガーゼ
防災頭きん
ばんそうこう薬など

ふだん使うもの

トイレトペーパー
ラジオ
かい中電灯

そのほか、必要なものがあったら書こう。

ライターやマッチ
赤ちゃんのおむつやミルクなど

家族で防災会議

災害が起きた時のために、家族で話し合っておきましょう。いざという時の「自分の役目」「避難場所」「連絡方法」を、ふだんから、しっかり確認しておくことが大切です。

自分の役目
非常持ち出し品を持っていく

家族がはなればなれになった時の連絡方法
災害用伝言ダイヤルを使う

非常持ち出し品の置き場所
2階寝室の押し入れ

家の近所の避難場所
○○小学校、○○公民館

自分の家がどのような場所にあるか確認して、災害が起こった時にどこに避難するかを確認しておきましょう。
家の近くの避難場所はどこか、避難場所までの道順の確認。
また、家にいるとき、学校にいるとき等、いろいろな場面での避難方法も確認しておく。

ぼう 防

さい 災

—— 鹿児島市教育委員会 ——

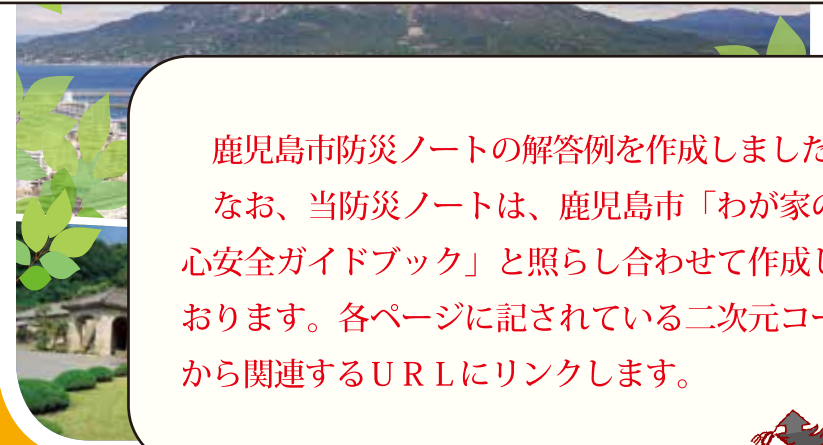
ノ ー ト

小学3～6年生用

表紙絵について

私たちの郷土鹿児島は、豊かな自然に恵まれる一方、災害と共に暮らし、それによって得られた経験や教訓によって暮らしを守ってきたという歴史があります。

防災教育を進めるに当たっては、そのような先人の努力に敬意を持たせるとともに、自然現象を災害の面からのみ捉えるのではなく、併せてその恵みについて理解を深め、自然と共生する能力を育成することが重要です。そのようなことから、表紙には、あえて、郷土の美しい自然や風景等を掲載しました。防災教育を通じて、子供たちの郷土を愛する心も育成されることを心から願っています。



鹿児島市防災ノートの解答例を作成しました。

なお、当防災ノートは、鹿児島市「わが家の安心安全ガイドブック」と照らし合わせて作成しております。各ページに記されている二次元コードから関連するURLにリンクします。



小学校

年	組	番
年	組	番



防災ノートの特徴

①発達段階に応じた体系的な教材

鹿児島市:防災ノートは、子供の発達段階にあわせて、小学1・2年生用、小学3～6年生用、中学生・高校生用に分けています。児童生徒が、防災教育として基礎的な知識や能力等を発達段階に応じて系統的に学習できるように、共通の目次構成をとり、重要な項目については、各教育段階で繰り返し学習できるようになっています。

②児童生徒自身で調べ、考え、まとめ、書き込むノート型の教材

児童生徒が、自分自身で主体的に、調べ、考え、まとめることができるよう、書き込む箇所を多く取り入れました。小学生1・2年生用では、危険な箇所を○で囲む、正しい行動を選ぶ、小学校3～6年生では、キーワードを記入する、話し合う活動を取り入れる、中学生・高校生用では、自分たちで調べる内容やまとめる箇所を設ける等、周りの状況に応じて自ら判断できる力がつくことを意図しています。

③緊急時にも活用できる教材

児童生徒が、緊急時にも活用できるよう、携帯しやすい大きさ(A5:148mm×210mm)、長く活用でき傷みにくい材質、記入しやすい紙質、愛着のあるデザインにし、ランドセルやバッグ等に常に携帯させて下さい。

④地域性を取り入れた教材

児童生徒が、過去に起きた災害を知るとともに、過去の災害例等から危険を理解することができるよう、8・6水害や大正噴火など鹿児島市で発生した過去の災害など、身近な事例を取り入れました。

⑤学校で学習したことが家庭で活用される教材

児童生徒が、学校で学習したことを家庭でも活用できるように、家庭で確認する内容、家族と一緒に考える内容を設け、児童・生徒だけでなく保護者と一緒に防災や自然災害について考えてもらえるよう工夫しました。また、通学路や家庭で災害が起こった場面を考えさせることで、学外や家庭での実生活の防災について学べるようにしています。





！大雨・台風になったら…

どんなことが起きるか、考えてみましょう。



！大雨・台風の時に気をつけること

次の文章が正しい時は(○)、正しくない時は(x)をつけ、その理由を話し合ってみましょう。

- 大雨の時、地下街などに避難する (x)
- 雨や風がおさまったらすぐに、がけに近づいてもよい (x)
- 家族と連らくを取り、みんなのいる場所を知っておく (○)
- 天気予報で、今後の台風の予想進路を知っておく (○)
- 川や水路があふれないか見に行く (x)



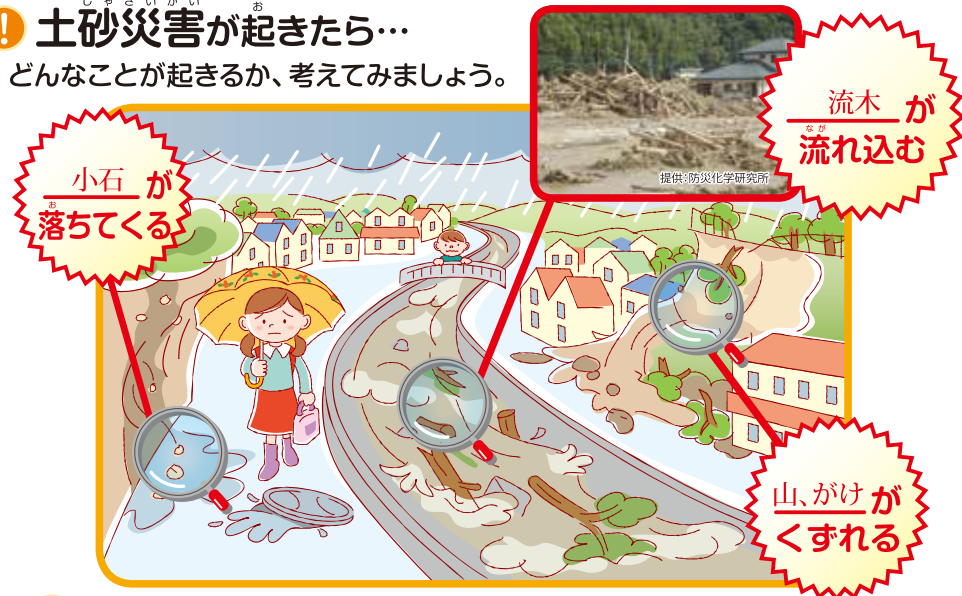
8・6水害を調べよう



平成5(1993)年8月6日、鹿児島県に大雨が降り、土砂くずれや川のはんらんがあちこちで発生しました。多くの人々が、命をうばわれたり、けがをしたりしました。また、建物や道路にも大きな被害が出ました。甲突川にかかっていた五石橋の内、残った3つの橋は石橋記念公園に移して、保存されています。

！土砂災害が起きたら…

どんなことが起きるか、考えてみましょう。



！ 次の文章が正しい時は(○)、正しくない時は(x)をつけ、その理由を話し合ってみましょう。

- 防災マップで、危険な場所を調べておく(○)
- 雨が降り続いたが、川の水位が下がったから大じょう夫だ (x)
- 崖からパラパラ石が落ちてきたが、小石なのでまだ安心だ (x)
- 降り始めからの総雨量が100mmを超えているので、予報を聞く (○)
- 土石流に直面した時は、土砂の流れる方向に対して直角に逃げる (○)

時間の雨量と予想されるえいきょう (イメージ)

1時間の雨量	予想されるえいきょう
8~15ミリ	雨の降る音が聞こえる。
15~20ミリ	地面一面水たまり。雨音で話し声がよく聞こえない。
20~30ミリ	どしゃ降り。側溝がたちまちあふれる。
30~50ミリ	バケツをひっくり返したよう。場合により、避難の準備を始める。
50ミリ以上	滝のように降る。土石流がおこりやすい。

(参考) 風速とひ害

風速10m/s	かさがさせない
風速15m/s	かん板やトタン板が飛びはじめる
風速20m/s	小枝が折れる
風速25m/s	瓦が飛び、テレビアンテナがたおれる
風速30m/s	雨戸がはすれ、家がたおれることもある

メモ

家族で大雨・台風について話し合って気をつけることを書きましょう。

P2.3の資料をつかって、家族の人との話し合う機会を促す。



「ひ難の判断と行動」については、地震・つ波や火山ばく発の災害でも参考にしましょう。

ひ難の判断

災害がせまったとき、それぞれがみずからはんだんし、てき切な行動をとらなければなりません。

例えば

- 土砂災害や河川はんらんのある地域に住んでいる
- 家族にお年寄りなど、ようはいりよしゃがいる

とにかく早めのひ難を

命を守る行動を

危険な状況のなかでのひ難はできるだけさけ、安全を第一に考えます。危険がせまっている場合は、指定されたひ難所への移動(①水平ひ難)だけでなく、命を守る行動が必要な場合もあります。

例えば

- 危険な場所がわかりにくい
- ひざ上まで浸水している
- 水の流れる速度が速い
- 垂直ひ難：屋外への移動は危険です。建物が安全な場合は、自宅などの建物の2階以上へひ難し、救助を待つことも考えてください。



！ 次の文章が正しい時は(○)、正しくない時は(×)をつけ、その理由を話し合ってみましょう。

- 家族にお年寄りがいるので早めにひ難する (○)
- ひざ上までしん水しているので、安全な家の2階に待機する (○)
- 堤防が壊れそうだが、ひ難指示が出るまでまつ (×)
- 夜でまわりが見えず危ないので、近くのビルの屋上にひ難する (○)

ひ難時のポイント

正しい情報を得て判断、行動する。



家族の状況を確認し、連らくがとれない時はメモを残す。



ブレーカーを落としガスの元せんを閉める。



せまい道・ほりぎわ・川べりをさける。



！ まずは自分の身を守りましょう

ゆれがおさまった後の行動は、どうすればよいでしょうか、考えておきましょう。

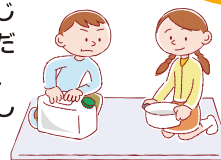
- ガラス片や転とう家具に注意しながら、火の始末や家族の安全確認をおこなう



- ひ難するための出口をかくほし、非常持ち出し品をけい行する
- ガスの元せんを閉め電気のブレーカーを落とす
- ラジオなどで情報を入手する



- 生活必じゆ品は自分の備ちくでまかなう(地震発生後の数日間は、水道・ガス・電気・電話等ライフラインをはじめ、食料の供給がとだえます。日ごろから、生活必じゆ品を用意しておきましょう。)



- 家おくとうかいなどのおそれがあれば、地震時の退ひ場所や広場等にひ難する
- はなれた家族の安否を確認する(安否確認は災害用伝言ダイヤルや災害用伝言板を利用しましょう)



！ 地震・つ波の時に気をつけること

次の文章が正しい時は(○)、正しくない時は(×)をつけ、その理由を話し合ってみましょう。

- 地震発生直後は、机の下などにひ難する (○)
- ゆれがおさまったら、火の始末をし、家族の安全確認をする (○)
- ひ難する時は、遠くまで行けるように、車で移動する (×)
- つ波は海のそばだけなので、川のそばにいても平気だ (×)
- つ波注意報だけなら、高い所へにげなくてもよい (×)



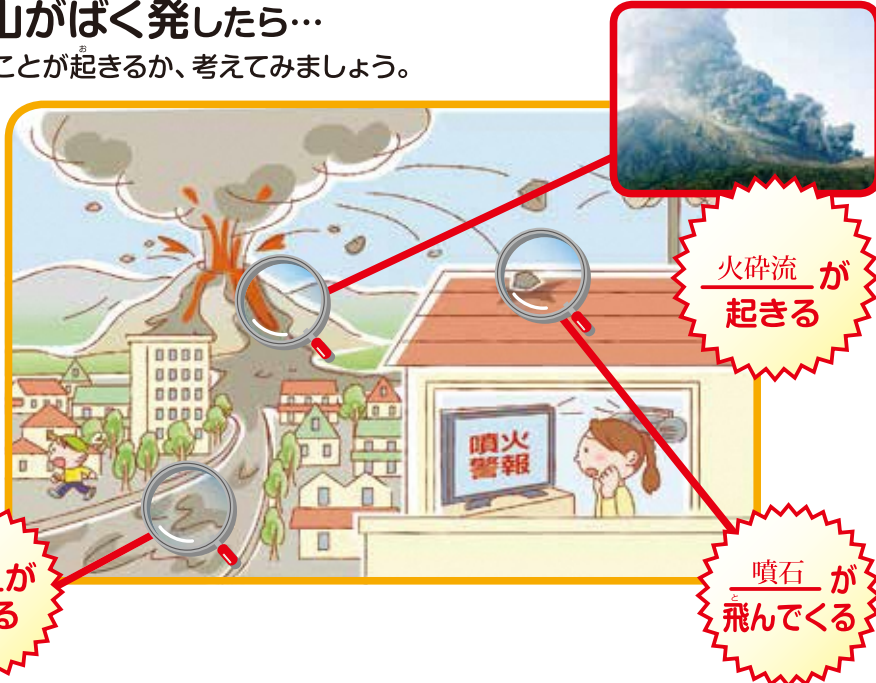
メモ

家族で地震・つ波について話し合っ気をつけることを書きましょう。

P4.5の資料をつかって、家族の人との話し合う機会を促す。

！火山がばく発したら…

どんなことが起きるか、考えてみましょう。



土石流が起きる

火砕流が起きる

噴石が飛んでくる

！火山ばく発の時に気をつけること

次の文章が正しい時は(○)、正しくない時は(×)をつけ、その理由を話し合ってみましょう。

- 火山防災マップで、危険な場所を調べておくとよい (○)
- 火口から遠いので、行き当たりばったりでにげればよい (×)
- 地震はよくあることなので、避難指示に従わなくてよい (×)
- 地鳴りや草木の立ちがれがあるので、噴火予報を聞く (○)
- 火山灰が口に入らないようにマスクをする (○)

桜島大正噴火を調べよう

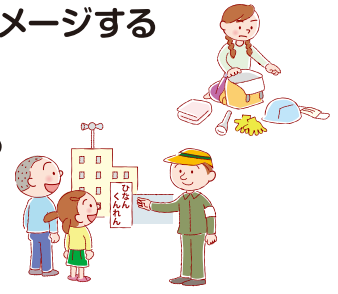
鹿児島県のシンボル桜島は、大正3(1914)年1月12日に大ばく発を起こしています。1162戸が壊れ、噴き出した溶岩でうめつくされました。黒神中学校横の鳥居(高さ3m、写真右)は、上の1m部分だけを残して埋まりました。



提供:鹿児島県立博物館

！火山ばく発がおこる前にやっておくべきこと

- 大量の軽石や火山灰による影響やひ害をイメージする
- 避難をしなければいけない場合に備える
- 気象情報や避難情報の収集方法を確保する
- 地域で防災活動を行う



桜島の自然とめぐみ

桜島は、まさに鹿児島島のしょうちよう的(しょうちようてき)そんざいで。ながめる楽しさはもちろん、いざ桜島へと足をふみ入れれば、豊かな自然と桜島ならではののみ力がまんざいで。

温泉

地下水がマグマに温められ、桜島には多くの温泉があります。



茶褐色の湯が特ちょうの桜島マグマ温泉



市街地側の温泉

農産物

温暖な気候や火山灰土じょうをいかした農産物は、桜島内外へとけられています。



世界一の大きさをほこる桜島大根



直径3cmほどの桜島小みかん

地下資源

シラスや石材、地熱などの大地のめぐみは、いろいろなことに活用されています。



石がきや石橋などに利用される石材



市電のき道しきに使われるシラスブロック

引用:「鹿児島県の火山防災ガイドBOOK」発行:桜島大正噴火100周年事業実行委員会

メモ

家族で火山ばく発について話し合っ気をつけることを書きましょう。

P6.7の資料をつかって、家族の人との話し合う機会を促す。

その他の災害のことを学ぼう

！かみなりが発生したら…

次の絵を見て、危ない行動を○で囲み、その理由を考えましょう。



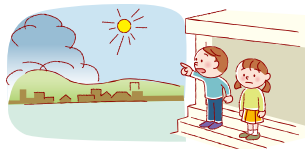
！ 次の文章が正しい時は(○)、正しくない時は(×)をつけ、その理由を話し合ってみましょう。

- 近くに避難する場所がなかったので、姿勢を低くした (○)
- かみなりが鳴っていたが、周りに雨をよける場所がなかったのでかさをさした (×)
- かみなり注意報が出ていたが、友達と約束していたので海に出かけた (×)

積乱雲に注意！



- 大気の状態が不安定で、らい雲(積乱雲)が発生している時は要注意。
- かみなりは雨が降る前に発生する。
- らい鳴が聞こえなくなっても安全な場所で待機する。
(落らいの危険はらい雲が消めつするまで続く)



！原子力発電所で、事故が起きたら…



原子力発電所で事故が起きたら、発電所から目には見えず、においもしない放射性物質がもれ出し、体に様々なえいきょうをあたえます。



守ること・大切なこと

情報を集める

- ニュースに注意する
- 防災放送をよく聞く

家の中に入る

- 窓やドアを全部閉める
- かん気せんを止める

外から帰ったら

- 手や顔を洗う
- 服をぬいでふくろに入れる

避難の指示にしたがう

- 戸じまりをしっかりとる
- マスクやぼうしをつける

！弾道ミサイルが発射されたら…



弾道ミサイルは、発射から10分もしないうちにとうたつする可能性もあります。日本に落下する可能性がある場合は、国からのきん急情報をしゅん時に伝える「Jアラート」を活用して、防災行政無線で特別なサイレン音とともにメッセージを流すほか、きん急速報メール等によりきん急情報をお知らせします。

Jアラートを調べよう



全国しゅん時けい報システム(Jアラート)は、弾道ミサイル情報、きん急地震速報、つ波けい報など、対処に時間的余ゆうのない事態にかんする情報を国から送信し、市町村防災行政無線などを自動起動することにより、国から住民まできん急情報をしゅん時に伝達するシステムです。

Jアラートメッセージ

(例) 直ちに避難。直ちに避難。直ちに建物の中、又は地下に避難してください。ミサイルが落下する可能性があります。直ちに避難してください。



さいがい 災害の時に 守るこ^{まも}と



しん 学校で地震が起きたら

地震やつ波などの災害は、いつ起きるか分かりません。自分を守るために、どんなことに気をつければよいでしょうか。

① 確かめる

- 1.先生（家の人）に注目する。
- 2.話をよく聞く。



約束

- ・していたことをすぐやめる。
- ・「何」を「どうするか」を考えながら聞いて行動する。

② 準備する

- 1.身を守る道具を持つ。（帽子・ハンカチ）



- ・落ち着いて準備する。
- ・必要ないものは持たない。

③ ひ難する

- 1.す早く並ぶ。
- 2.す早く移動する。



- ・す早く行動する。
「おさない」
「かけない」（走らない）
「しゃべらない」
「もどらない」
をしっかり守る。

3.ひ難場所で待つ。

※場合によっては、場所を移動することもあるので、まわりの様子に注意しておこう。



- ・まわりの様子にも注意する。

! ひ難の時に気をつけること

次の文章が正しい時は(○)、正しくない時は(×)をつけ、その理由を話し合ってみましょう。

- すぐににげなくてはいけないので、とにかく教室を飛び出した（×）
- 先生や大人の話を見聞かずに、小声でおしゃべりをしていた（×）
- 家が無事か心配なのですぐに帰った（×）
- 崩れるおそれがあったが、近道なのでがけの下を通った（×）
- しん水のおそれがあったので、遠回りでも別の道を通った（○）



! 学校で、地震が起きたら...

どんなことが起きるか、どうしたらよいか、考えてみましょう。

バスケットゴールが倒れる

窓ガラスが割れる

ドアを開ける

机の下にもぐる

! 学校で、地震が起きた時の行動

地震が起きた時、どのような行動をとるべきか、具体的に書いてみましょう。

		最初にとる行動	次にとる行動
地震発生!	教室にいる時	机の下にもぐる	先生の指示にしたがってひ難する
	校庭や体育館にいる時	倒れる物が近くでない中央でじっとする 頭を守って姿勢を低くする	

ゆれがおさまったら

外で地震が起きたら

家で地震が起きたら

！ 登下校の時や、出かけている時に地震にあったら…
 どんなことが起きるか、どうしたらよいか、考えてみましょう。



！ 家で、地震が起きたら…
 どんなことが起きるか、どうしたらよいか、考えてみましょう。



！ 外で、地震が起きた時の行動
 地震が起きた時、どのような行動をとるべきか、具体的に書いてみましょう。

		最初にとる行動	次にとる行動	
地震発生！	登下校の時	頭を守る くずれそうな物、落ちてきそうな物からはなれる	ゆれがおさまったら 安全な場所、避難所に行く	
	遊びに出かけた時	海では… 海からすぐに上がる		海からはなれて、なるべく高い所に避難する
	山では… くずれそうな場所からはなれる	くずれる物がない広い場所に避難する		

！ 家で、地震が起きた時の行動
 地震が起きた時、どのような行動をとるべきか、具体的に書いてみましょう。

		最初にとる行動	次にとる行動	
地震発生！	料理をしている時	台所をはなれて テーブルの下などに避難する	ゆれがおさまったら 火を消す ガスの元せんを閉める	
	起きている時	机やテーブルの下などに避難する		テレビ、ラジオなどで地震情報を確認し、避難する
	おやすみ時	布団やクッションなどをかぶって身を守る		テレビ、ラジオなどで地震情報を確認し、避難する



避難場所を調べよう



地域で起こりうる災害

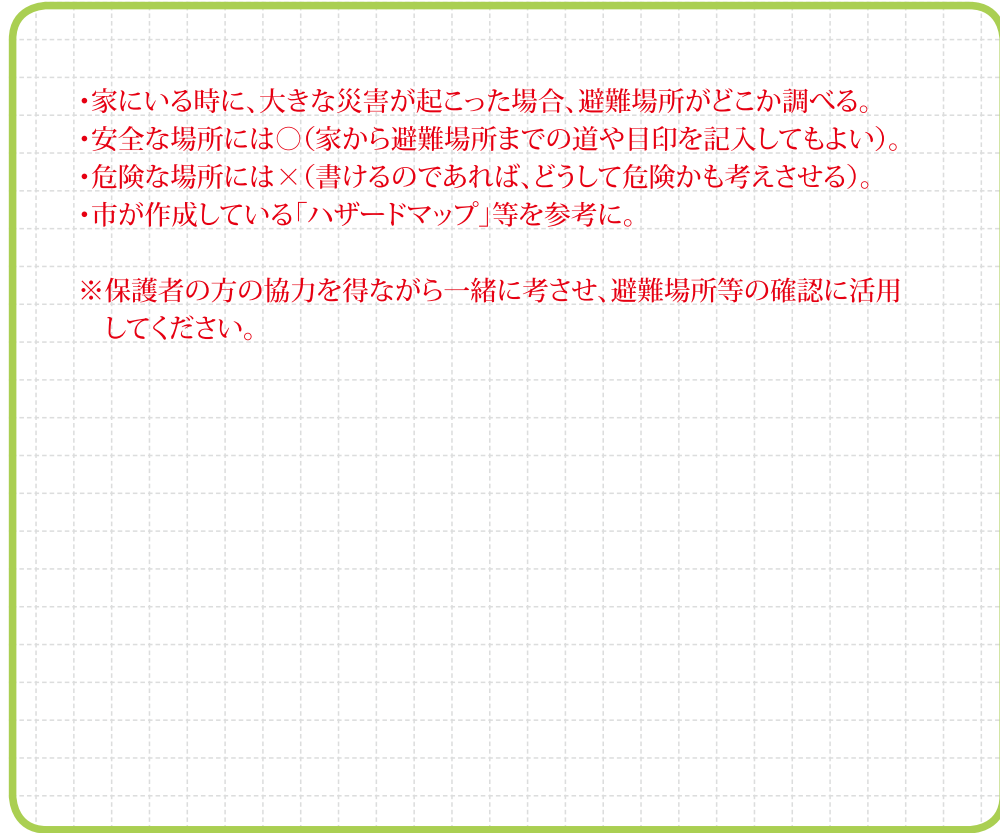


危険な場所と、避難場所を調べよう

学校から家までの帰り道を書いたり、地図をはったりして、安全な場所には○、危険な場所には×をつけましょう。家族といっしょに、話し合いながら書いてみましょう。また、各災害時の避難場所への安全な道にも印をつけましょう。

- ・家にいる時に、大きな災害が起こった場合、避難場所がどこか調べる。
- ・安全な場所には○(家から避難場所までの道や目印を記入してもよい)。
- ・危険な場所には×(書けるのであれば、どうして危険かも考えさせる)。
- ・市が作成している「ハザードマップ」等を参考に。

※保護者の方の協力を得ながら一緒に考え、避難場所等の確認に活用してください。



どんな危険が近くにあるか、調べてみよう

自分たちの地域では、どんな災害が起きる可能性があるでしょうか？近くにある自然などから、想像してみましょう。

桜島がある → 噴火 火砕流 火山灰

海が近い → 台風のとくに高波が来る

地震のときに津波が来る

公園の近くにがけがある → 大雨のときに崩れる

など

みんなの街は
 どんどこころかな？
 海、火山、がけ
 などがあるかな？



避難行動のイメージ

「わが家の安心安全ガイドブック」や「かごしまマップ」で自宅の安全を確認

自宅外
避難

●自宅が危険な場所にあるとき

●自宅が安全な場所にあるとき

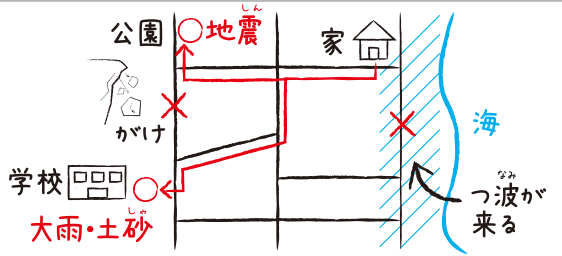
自宅
避難

- ・避難の判断の確認
- ・避難場所、避難経路の確認

・家族の状況を確認する。

見本

- 避難する場所
- × 危険な場所
- 通る道





けがをした時は



避難訓練

！もしけがをしてしまったら…

まずは、**大人に助けを求めましょう。**
最初あまり痛くなくても、後からしょう状がひどくなることもあります。自分の判断で「大丈夫」と思わず、けがをしたことを、必ず先生や家の人に知らせましょう。



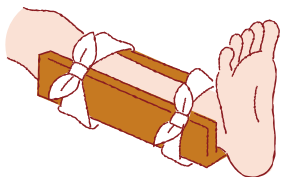
！ 次の文章が正しい時は(○)、正しくない時は(×)をつけ、その理由を話し合ってみましょう。

- すりむいて血が出たので、水で洗い、ガーゼを当てた (○)
- 頭を打ってはき気がしたが、そのままねていた (×)
- とびらで手をはさみ、はれ上がったが、がまんした (×)
- やけどをして、水ぶくれができたので、つぶした (×)

！ 応急手当

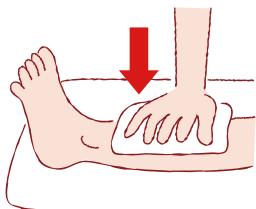
けがをした時に、あわてないように、応急手当を覚えましょう。

骨折



身近にある、**固いもの**をそえて固定する。

出血



清潔なガーゼなどで、傷をおさえる。
血液にふれない。

やけど



30分以上、水で冷やした後、ガーゼなどで傷をおおう。

応急手当をしたら、

必ず病院に行きましょう

！ 避難訓練の前に…

なぜ避難訓練をするのでしょうか？ その意味を考えてみましょう。

実際に災害が起こったとき、
落ち着いて行動できるようにするため

！ 避難訓練の感想

月 / 日

避難訓練は、災害発生時に児童生徒等が常に安全に避難できるよう、その実践的な態度や能力を養うとともに、災害時に地域や家庭において、自ら進んで他の人々や集団、地域の安全に役立つことができるようになることを目指して行います。

1. 「揺れたら」(初期対応)の訓練
2. 「揺れが収まったら」(二次対応)の訓練

教科・領域と関連させた避難訓練

学級活動や教科との関連を図って事前・事後指導を行ない、自然災害の種類やその発生メカニズム、種類や災害の規模によって起こる危険や避難の方法について理解させるとともに、訓練実施後には、反省事項等についてもよく指導し、訓練の効果が高められるように配慮することが大切です。